



宮司プレス 第七十号

彦島八幡宮 宮司 ニュース

発行者 彦島八幡宮

宮司 柴田 宜夫

発行 平成二十四年三月 三十日

◇宮司の柴田です。

「暑さ寒さも彼岸（ひがん）まで」といわれておりますが、今年は、三月の半ばをすぎても、残寒厳しく、雨も多く、すっきりとしない、ぐずついた天候でしたよね。ようやく、春光次第に地に満ちて、日増しに暖かく感じられるようになりました。まさに、「三寒四温（さんかんしおん）」であります。

◇毎月発行している「宮司プレス」、今月号の発行は、七十号という節目、佳節（かせつ）を迎えていながら、とうとう発行日のワースト記録を更新しました。発行に関しては、なかなか、「エキस्प्रेस（特急）」にならないようであります。宮司就任一年目の平成十八年六月に、一念発起して第一号を発行、五年と十ヶ月、毎月欠かさず発行を続け、七十号を迎えました。感慨（かんがい）深いものがあります。継続できまされたのも、お読みになり、コメントを寄せてくださる方々のあたたかい御支援のたまものです。心から感謝申し上げます。これからも、発行日にごかわらず、地道に発行を続け、百号を目

指したいですね。そして、百号に到達した

暁（あかつき）には、記念の総集編の冊子を発行できたらと考えています。アメリカのルーズベルト大統領は、「最初に月を取りに行け、なぜなら、たとえ取り損ねても、そこから星を目指す事が出来る」と仰いました。目標は、高く大きく、諦（あきら）めず、勇敢果敢（ゆうかんかかん）に取り組んでまいります。変わらぬ御支援を宜しくお願い申し上げます。

◇茶道（さどう）を大成（たいせい）させた千利休（せんりのきゆう）が、茶道を学ぶ心構えを説いた歌があります。

「規矩作法（きくさほう） 守りつくして 破るとも 離るとても 本を忘るな」

これは、武道、芸事習い事などにも通じる、「守（しゅ）・破（は）・離（り）」という考え方です。まず、伝統的な古いやり方をどんな事でも変えないで徹底的に学ぶ、基本を身につけるといいう「守」。そして、基本技術を十分に身につけた上で次の段階として、古い伝統的なものを「破」り、さらに、やが

ては、学んだものと全く違った、新しい独創的なものを確立して、「離」れる、新たな流派というものを造りだすという考え方です。しかも、独自の境地を開拓しても、「本を忘るな」、元の精神、初心、基本を忘れるなど、

必要なのは、日々の「稽古（けいこ）」なのです。「稽（けい）」とは、考える事を意味し、「古」は過去から受け継がれてきた形を意味するのです。今のわが国の状況は、独自の境地を開拓してはいますが、よく「ガラパゴス化」といわれたりするように、元の精神、初心を忘れて、独断や我流に陥（おちい）っているのではないのでしょうか。戦

後の復興のさなかでも、「稽古の精神」でもって、欧米の文化文明をまねて自分のものにして、さらに勤勉（けんけん）さ几帳面（せいぜんめん）さをもって改良研究を重ね、独自の文化文明を形成し、今日の繁栄を築き上げてきました。今こそ、日本人の「本を忘るな」であります。では、日本人の「本」とはなんでしょうか。

◇上智大学名誉教授の渡部昇一先生は、日本人には、祖先から連綿と受け継がれた特有の精神が宿っていて、それは、後世（こうせい）に伝えていきたい日本人の国民的精神であり、日本人が誇るべき三つの「刷り込み」だと述べられています。それは、「自然観」

と「宗教観」そして、「労働観」だそうです。

それは、森に対して神聖なイメージを持つ「自然観」です。森には、神様が宿ると考えられて、木はたえず植林され、森は大切に守られています。さらに、複数の宗教を共存させる「宗教観」です。神道もよし、仏教もよし、キリスト教もよしとする、相対化された宗教観を持っています。世界の民族紛争の多くが宗教紛争であり、自分の宗教だけ正しいという絶対化は望ましくありません。そして、勤労を尊しとする「労働観」です。古事記には、天照大御神（アマテラスオオミカミ）も機（はた）を織（お）られている事が記載されていますし、天皇陛下もおみ足を泥沼（どろぬま）におつけになり、お田植えをなさり、稲刈りもされます。一国の君主が、泥沼にお入りになるということは、西欧では見られない現象です。

◇東日本大震災の対応の不振と震災復興の遅滞（ちたい）など、政府の対応を「統治（とうじ）の貧困（ひんこん）」だとおっしゃる方や、「震災後」ではなく「いまだ震災中」だといわれる方もおられます。先行き不安で、日本人としての自信を失いそうでありますが、誇るべき日本人の「本」に立ち返り、「稽古照今（けいこしょうこん）」で、復興に向けて、確実に堅実に歩みたいものです。

◇二月の祭典行事報告

- ▼月次祭 *二月一日、十五日
- ▼節分祭 *二月三日
- ▼海上自衛隊補給艦「はるな」参拝*二月十日
- ▼紀元祭 *二月十一日
- ▼祈年祭
- *本宮 二月十七日
- *六連島八幡宮 二月二十五日
- *田ノ首八幡宮 二月二十六日

▼朝粥会 *二月二十一日※小豆粥を頂きました



◇三月の祭典行事報告

- ▼月次祭 *二月一日、十五日
- ▼東日本大震災復興祈願祭 *三月十一日
- ▼神前結婚式奉仕 *三月十一日



◇三月の宮司の行事会議等活動報告

- ▼当宮関係団体
- ◇神道会総会 *三月二十日
- ◇敬神婦人会役員会 *三月二十三日
- ▼山口県神社庁、同下関支部関係
- ◇全国植樹祭天皇皇后両陛下奉迎実行委員会 *三月二日、六日、二十六日
- *三月九日
- ◇山口県神社庁教学研究大会 *三月十二日
- ◇下関支部老人ホーム慰問行事*三月二十七日
- ◇建国奉祝会役員会 *三月二十八日
- ▼美祿社会復帰促進センター教誨（きょうかい） *三月二十一日（集合女子） *三月二十六日（集合男子）
- ▼講演活動
- ◇講演講師養成研修 三月二十九日
- ◇西ロータリークラブ
- ◇例会 *三月二十八日
- ◇メーキャップ *三月十九日、二十九日、三十日
- ▼倫理法人会モーニングセミナー *三月十四日、二十八日
- ▼学校評議員会
- ◇西山小学校 *三月四日
- ◇玄洋中学校 *三月十五日
- ▼人権擁護委員活動
- ◇下関協議会自主研修 *三月一日